

氏名	鈴木 淳子
学位の種類	博士（ 学術 ）
学位記番号	博甲第 8419 号
学位授与年月	平成 30年 1月 31日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	中年期女性における首尾一貫感覚の要因と機能に関する研究

主査	筑波大学教授	保健学博士	武田 文
副査	筑波大学教授		杉江 征
副査	筑波大学准教授	博士（学術）	水野 智美
副査	筑波大学教授	博士（心理学）	坂入 洋右

## 論文の内容の要旨

鈴木淳子氏の博士論文は、中年期女性における首尾一貫感覚の要因と機能について検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

（目的）著者は本論文の研究背景として、中年期のストレスや精神的不調は高齢期の精神的不調のリスクになることから、健康寿命延伸の上で中年期の精神健康の保持は重要な課題であると述べている。そして、ストレス対処力として近年注目されている「首尾一貫感覚（Sense of Coherence：SOC）」をとりあげ、その要因と機能に関する理論仮説を説明している。それによれば、SOCは汎抵抗資源（General Resistance Resources：GRRs）と良質な人生経験によって形成され、精神健康を直接保持したりストレスが精神健康に及ぼす影響を緩衝したりする機能を持つ。SOCの理論仮説は中年期女性に関する研究をもとに提唱され、多くの実証研究が行われてきたにもかかわらず、中年期女性を対象とした検討はいまだ僅少であることから、著者は中年期女性におけるSOCの要因と機能について以下の研究1～3により実証検討することを研究目的とした。研究1でSOCの要因について、「GRRs」として社会環境要因の一つであるSocial Capital（SC：地域の信頼やつながり）を、「良質な人生経験」として中年期の発達課題の一つであるGenerativity（自らの経験や知恵、技などを次世代へ継承する行

動) をとりあげ検証し、次に研究 2 で中年期女性のストレス尺度を作成し、研究 3 ではそれを用いて SOC の機能について、精神健康への直接効果およびストレスの精神健康に及ぼす影響の緩衝効果を検証している。

(方法) 著者は、東京都杉並区の住民基本台帳から層化無作為抽出した 45~64 歳の女性 1,000 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を郵送法で実施した。回収数は 347 部 (回収率 34.7%)、有効回答率は 328 部 (有効回答率 32.8%) であった。調査項目には、SOC13 項目日本語版、K6 質問票日本語版、主観的 SC 尺度、Generativity 行動尺度などを用いている。

(結果) 著者は研究結果について以下のように述べている。研究 1 では、SC が Generativity および SOC とそれぞれ関連し、Generativity と SC も関連することが明らかとなり、SC、Generativity、SOC の循環構造の関係が認められた。研究 2 では、中年期女性のストレス尺度 (「夫との関係」「老後の心配」「ワークライフバランス」「友人関係」「健康の問題」5 因子 17 項目) を作成し、尺度の信頼性と妥当性を確認した。研究 3 では、SOC の精神健康に対する直接効果はストレスの種類や SOC のレベルにかかわらず示されたのに対し、ストレスの精神健康への影響を緩衝する効果はストレスの種類や SOC のレベルによって異なることが明らかとなった。すなわち、SOC は「夫との関係」ストレスを緩衝する効果を持たず、また SOC 高群では「老後の心配」「ワークライフバランス」「友人関係」ストレスの、SOC 中群では「友人関係」ストレスの精神健康への影響を緩衝するが、SOC 低群ではストレス緩衝効果を認めなかったとしている。

(考察) 著者は研究結果をふまえ、中年期女性においては Generativity および SC が SOC の形成要因となること、また SOC、SC、Generativity は循環構造の関係にあることが明らかとなり、SOC の要因に関する理論仮説が支持されたと考察している。そして本知見より得られた示唆として、中年期女性の SOC を高めるうえで、自身の知恵や技術などを次世代に後継する Generativity 行動が重要であり、その促進には居住地域に対するポジティブな認知や連帯感である SC の醸成が有効であると論じている。また SOC の機能について、精神健康への直接効果およびストレスの精神健康に対する影響を緩衝する効果を認めたことから、SOC の機能に関する理論仮説が支持されたとしている。著者はさらに本研究から得られた重要な新知見として、ストレスの種類と SOC のレベルによってストレス緩衝効果が異なることをあげ、中年期女性の精神健康の保持対策について考察している。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

我が国の健康寿命延伸のうえで、中年期以降の精神健康の保持増進は重要な課題である。SOC は精神健康を保持するストレス対処力の一つとされているが、本論文はその理論仮説に基づき、初めて中年期女性における SOC の要因と機能について実証したものである。研究結果から、近年注目されている社会環境要因 SC および発達課題 Generativity が SOC を形成する要因であること、またストレスの種

類と SOC のレベルによって SOC の機能が異なることが明らかにされており、極めて新奇性が高い。以上のことから本論文は、SOC 理論仮説の検証および中年期女性の精神健康の保持増進に貢献するものとして意義を持つと評価できる。

平成 29 年 12 月 8 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。よって、著者は博士（学術）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。